



CSR 経営評価意見書

栗田工業株式会社 御中

<目的と実施した作業についての概要>

クリタグループの事業と関係のない第三者として、同社が作成する「クリタグループサステナビリティレポート 2020」に記載されている CSR 経営活動の評価を行うことにより、報告書の信頼性を高めることを目的として所見を述べます。

クリタグループのCSR経営活動がどのように計画され実行されているのか、その結果であり開示情報の基礎でもあるパフォーマンスデータが、どのように作成され、評価され利用されているのかについて、門田道也代表取締役社長へのインタビューを始め、本社担当者への質疑を実施しました。

<評価意見>

新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、社会における優先順位や価値観、生活様式が変化せざるを得ない状況となっています。本当に必要なもの、大切なものを選別する改革が始まっていると思われまます。水を事業とするクリタグループは、インフラ基盤を支える会社として、さらに重要度を増し、事業を継続することが社会から期待されています。クリタグループでは、コロナ禍でも事業を停止せず、求められる水処理を供給し続けられました。クリタグループは現在、所有する経営資源と社会へ提供できる価値を見直し、大きく変革中です。今回のコロナ禍で、デジタル化やリモート化が一層促進され、新しい時代の企業としての陣容を整えられつつあるように思います。

クリタグループでは、顧客を通じて社会に提供する「価値」を最重要項目として組織を再編し、業績評価基準の見直しをされました。クリタグループが社会に提供するものは、水処理薬品や装置などの商品ではなく、それを使うことによって顧客が得る価値であり、その価値は顧客と共創することによって社会に提供されるものであるという考え方は、事業特性もありますが、SDGs の理念や持続可能な社会を実現していくに相応しいものです。この思考を実行するために、形式上の価値を具体化するシステムを構築されており、非常に高く評価されます。

2019 年度は、中期経営計画「MVP-22」の 2 年目となり、クリタグループが目指すあるべき姿、価値創造モデルを実現するビジネスプロセスへ仕組みが整えられました。また 7 つのマテリアリティ項目については 2022 年度目標へ向けて着実に進められています。特に「成長機会テーマ」のうち、水、エネルギー、廃棄物の目標については、本業での貢献と結び付けての削減を目指し、2022 年度目標を前倒しで達成され、より高い目標を再設定されています。その他 Scope3 を把握して対策を検討されるなど、自社内での削減活動も推進されています。クリタグループで推進している CSV ビジネスは、顧客をパートナーとして共に価値を創造し、それを評価するという定義によるものですが、MVP-22 計画の重点施策に掲げられており、今後の拡大が期待されます。

クリタグループのサステナビリティレポートは、CSR 経営を推進するための制度や運用状況、実績などの情報がとても充実しています。また顧客とともに価値を共創する事例も紹介されており、読み手の理解を助ける内容です。今後は、一番重要なステークホルダーである従業員がクリタグループの理念や価値をどう捉え行動しているのかが見えると、より一層分かりやすくなると思います。従業員をはじめとするステークホルダーとのコミュニケーション情報も読ませただけのことを期待しています。

なお環境パフォーマンスデータの収集について、簡単なチェックをしましたが、特に重要な間違い等はありませんでした。

2020 年 7 月 28 日

株式会社 環境管理会計研究所

國部克彦（取締役／神戸大学大学院経営学研究科教授）

梨岡英理子（代表取締役／公認会計士・税理士）